

199大学就職状況実態調査〔平成25年11月現在〕

- 就職が決まらない学生はコミュニケーションが苦手
- 大学生の内定率は59.1%（前年より+1.8ポイントの改善）
- 中小企業への関心が内定率向上のカギ
- 就職・採用スケジュール変更は賛否分かれる

株式会社ライセンスアカデミー（本社：東京都新宿区）は、高等学校における進路・進学説明会を中心に教育情報を提供・発信しています。進路情報研究センターは、「学校」「企業」「生徒・学生」の「今」を調査する同社のシンクタンク部門です。

このたび、全国の大学を対象に、①4年生の現状（就職内定率など）、②大学の取り組み（就職支援など）、③これからの就職・採用活動の見通しについて調査しました。

文部科学省、厚生労働省の両省においても内定率を調査していますが、62大学限定のサンプル調査です。本調査の内定率の有効回答数は170大学であり、より規模が大きいものになっています。

■内定率は全般的に改善

現4年生の就職内定率は、59.1%（回答170校の内定率を平均）。前年の57.3%よりも1.8ポイント上昇した。自校の内定率について5段階で評価を求めたところ、最多が「やや良い」の78校・44.8%で、全体的に好転したとらえている。その一方で、「やや悪い」が20校・11.5%、「大いに悪い」が5校・2.9%という評価もある。

■内定率アップは中小企業の内定が寄与

内定状況「やや良い」と答えた78校について、企業種別の内定数の増減に着目した。大手企業増加は19校が回答したのに対し、中小企業内定増加はそれを上回る27校が回答。中小企業への関心が内定率を押し上げている。

■大学の求人票利用が内定への早道

求人票の利用率が高い大学ほど、そこから高い割合で内定を得ていることが分かった。個別大学向けられた求人情報はより高い内定率に結びつくと推測される。就活サイト中心の風潮は再考すべきではないか。

■内定率向上に合同企業説明会が寄与

内定率を向上させる取り組みとして、学内で開催する「合同企業説明会」への評価が高い。学生と企業が直接、面談できる場として注目されていることが明らかになった。

■スケジュール変更のデメリットの危惧が

2016年4月採用・入社の学生（現2年生）から、就職活動のスケジュールは大きく変更される〔広報開始は12/1→3/1、採用選考活動開始は4/1→8/1とそれぞれ後ろ倒し〕。

変更のメリットとして、3年次までは学業に専念できる、留学しやすくなる等の声が寄せられた。

一方、不安に感じられる点として、教育実習や卒業論文・卒業研究の作成、および、公務員や教職の採用試験などの両立が現在よりも難しくなるとの指摘が多かった。

また、インターンシップが「プレ選考」の場になるという苦言も相次いだ。

■就職が決まらない学生はコミュニケーションが苦手

就職が決まらない学生の特徴について、6割以上の大学が「話すことが苦手」を挙げた。2位以下、「自己理解・自己分析が不足」「こだわりが強すぎる」と続く。

●調査対象

全国の4年制大学「746校」のキャリアセンター（卒業生がまだ出ていない大学、医学部だけの大学などは調査対象から外した）

●調査方法、回収率

11月12日にファックスにて、質問紙を発信。締切日11月20日までに、199校分を回収。内訳は、国立28校、公立19校、私立152校。回答率は26.7%。

(株) ライセンスアカデミー進路情報研究センター

URL : <http://licenseacademy.jp/>

〒169-0073東京都新宿区百人町2-17-24

T E L 03-5925-1706

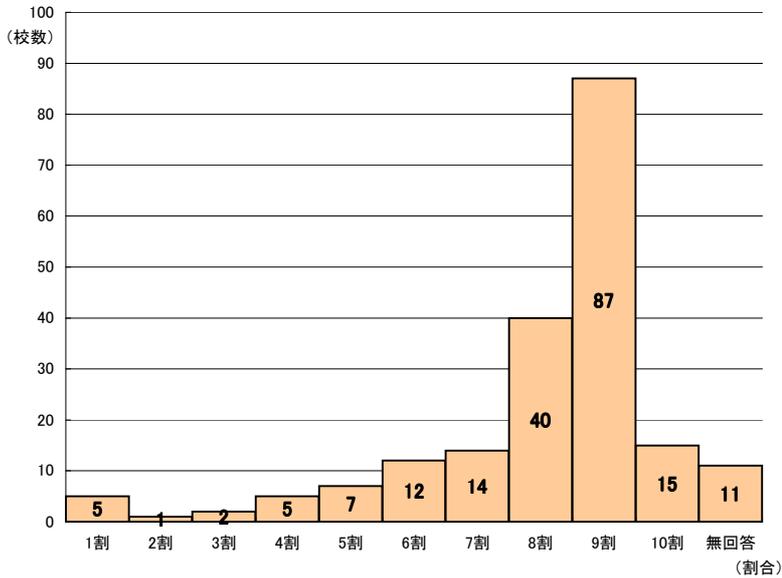
担当 : 加藤泰志

e-mail : yasu-katou@licenseacademy.jp

①大学・学生の実情

Q. 現4年生で、卒業後に就職を希望する学生は何割程度いますか？ また、その割合は昨年と比べて変化はありますか？

就職を希望する割合



就職希望9割以上の校数は54.3%、8割以上だと75.5%になる(無回答校を除く)。

5割以下の回答は理工系大学、国立難関大学から寄せられ、逆に、10割は医療系大学から寄せられた。

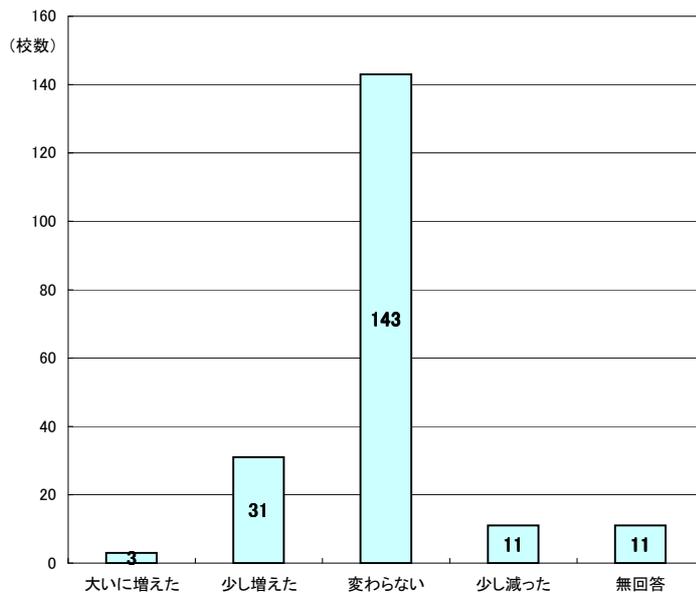
【コメント】

今回のアンケート回答は、就職者の比率の高い大学が多い。それだけに就職状況の実態がよくわかる。

その割合は昨年より・・・

	校数	割合
大いに増えた	3	1.6%
少し増えた	31	16.5%
変わらない	143	76.1%
少し減った	11	5.9%
だいぶ減った	0	0.0%
無回答	11	-
総計	199	100.0%

就職希望者の数は昨年とそれほど変わらない(76.1%)。「少し増えた」の回答は地方の私立大学が大部分を占める。逆に、「少し減った」の11校中、4校は地方の国公立大学。「だいぶ減った」と回答した大学はなかった。



Q. 現4年生の就職内定状況は昨年と比べていかがですか？ 具体的な状況についてもお聞かせください。

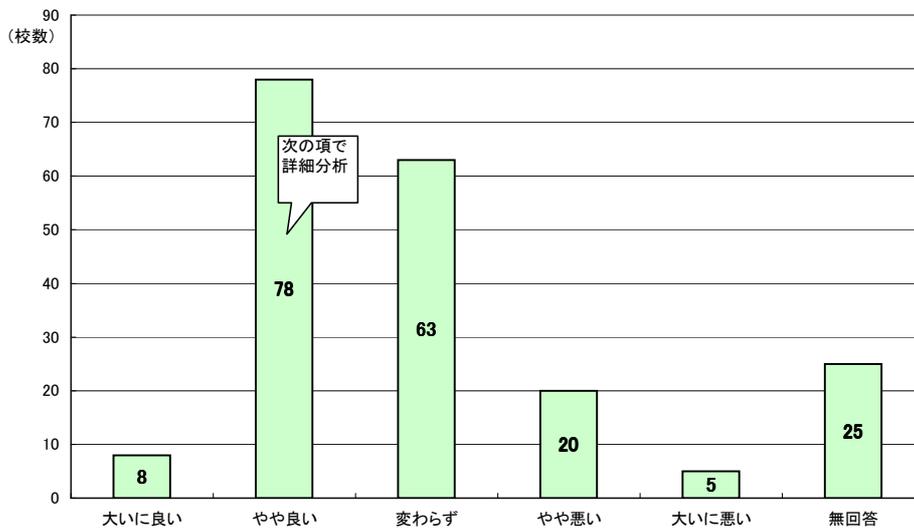
現4年生の就職内定率は各大学の値を平均すると59.1%(回答170校)。前年の57.3%(回答167校)よりも1.8ポイントの上昇である。
ただし、医療系、栄養系などの学部は、就職活動の形態が異なる。そうした学部のみを有する単科大学を除いた数値は、それぞれ今年58.8、前年56.1というパーセントで前年度よりも2.7ポイントの上昇になる。

前年と比較して、内定状況の評価は・・・

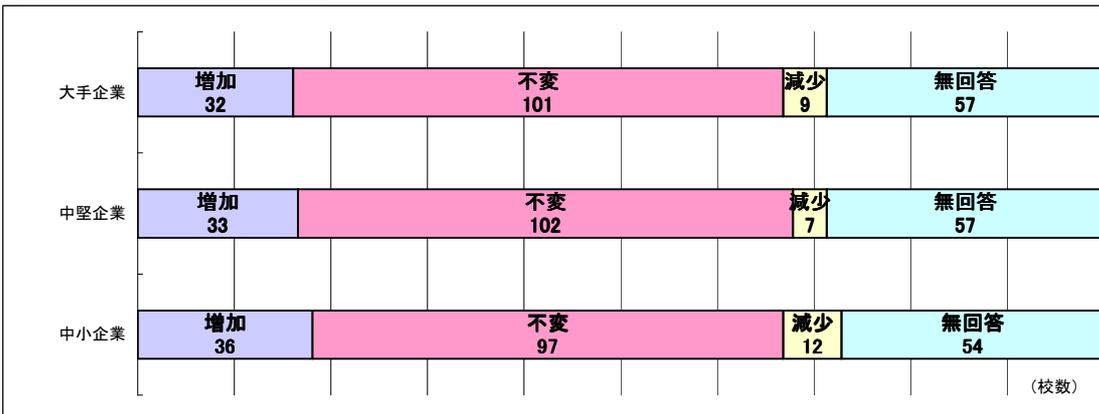
	校数	割合
大いに良い	8	4.6%
やや良い	78	44.8%
変わらず	63	36.2%
やや悪い	20	11.5%
大いに悪い	5	2.9%
無回答	25	-
総計	199	100.0%

自校の内定率の評価(前年と比較)については、全体的に良好ととらえている。

「やや悪い」「大いに悪い」と回答した大学については、立地、学部構成など大きな傾向は読み取れない。
「大いに良い」は工業系大学2校からの回答が、「大いに悪い」にも工業系大学2校からの回答がそれぞれ寄せられている。工業系大学の就職状況は「二極化」の傾向が見られる。

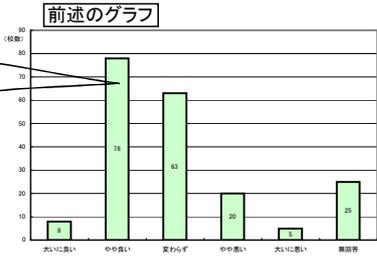
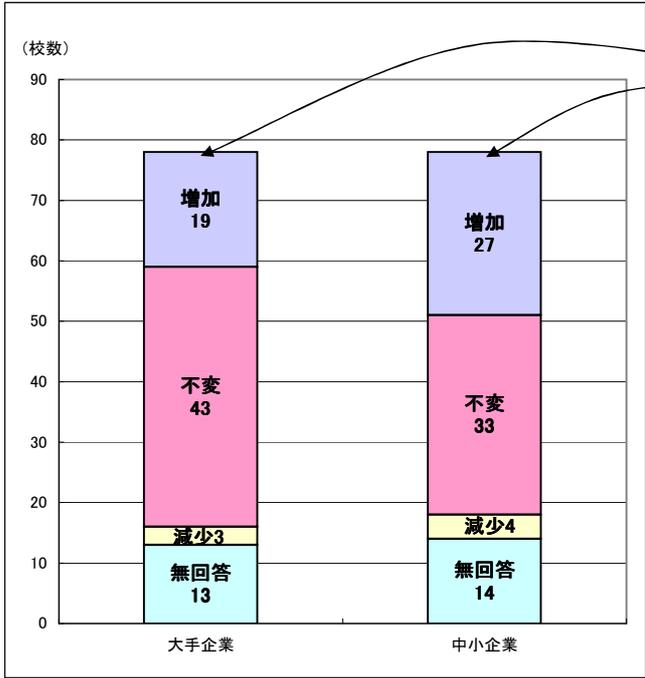


企業規模別の内定状況は・・・



企業の規模別では、内定数に大きな変化は見られない。ただし、中小企業では若干、増加と減少の「二極化」の傾向が見られる。

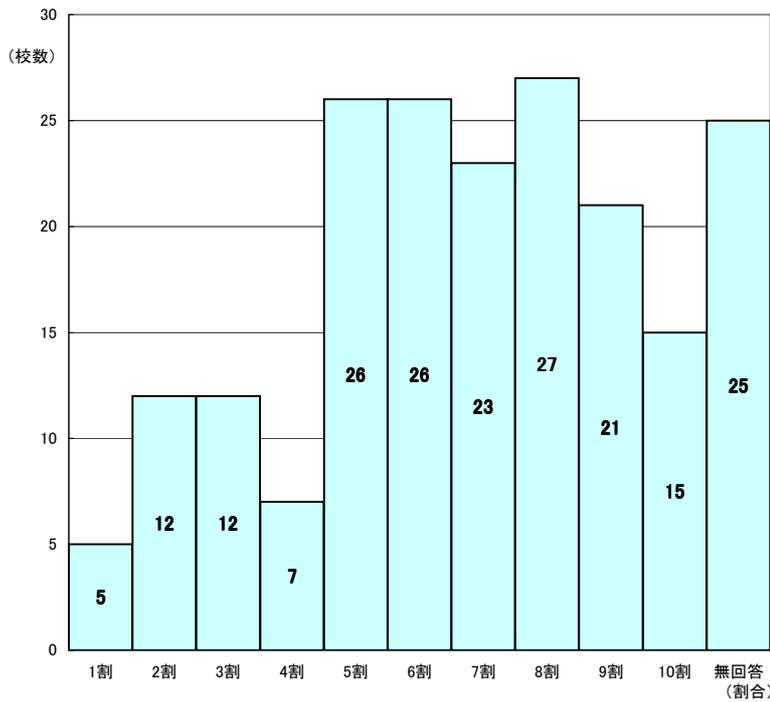
《詳細分析》内定状況評価「やや良い」と回答した78校の企業規模別の内定状況は・・・



ただし、前述した内定状況について、「やや良い」と答えた78校に限って、企業種別ごと再集計した。すると、大手企業よりも中小企業の増加が大きいことが分かった。

【コメント】
 中小企業への就職者数増加は、ここ数年指摘されるところだが、今回の調査でも顕著だ。実際に就職する数が多ければ、内定率もよくなることがここにも表れている。

Q. キャリアセンター等の就職支援担当部署を利用している学生はどの程度いらっしゃいますか？

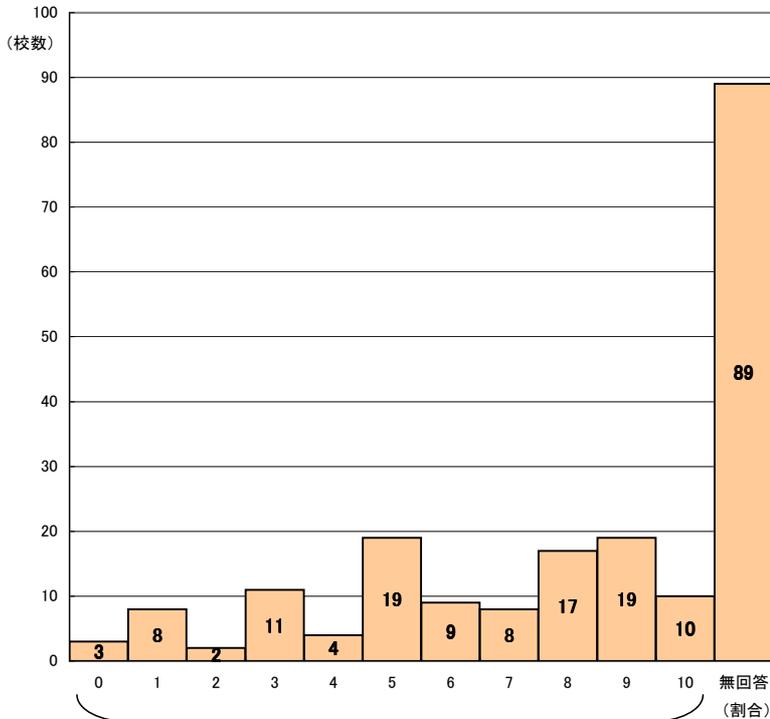


「5割以上利用」は回答校の79.3%と、全般的に学生の利用率は高い(無回答を除いた集計)。

ただし、医療系、教育系単科大学においては、「1～3割利用」と低い値の回答が寄せられた。

Q. 大学に対する求人情報を利用して就職活動を行う学生とその求人情報を出発点として内定を得た学生はどの程度いらっしゃいましたか？

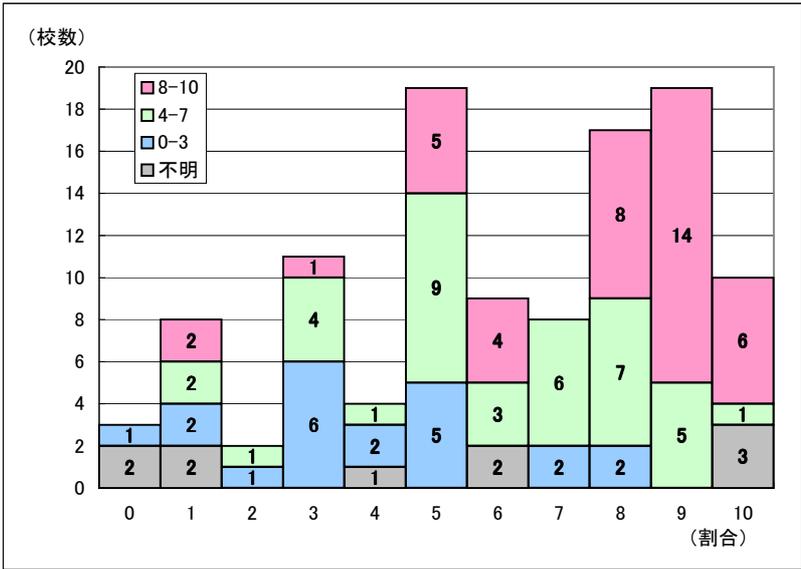
求人情報を利用して就職活動を行う学生の割合は・・・



無回答(未集計も含む)が多数を占める。学生の利用割合について、学校の種類、所在地など、特定の傾向は見られない。

次の項で詳細分析

大学に対する求人情報を出発点として、内定を得た学生の割合は・・・



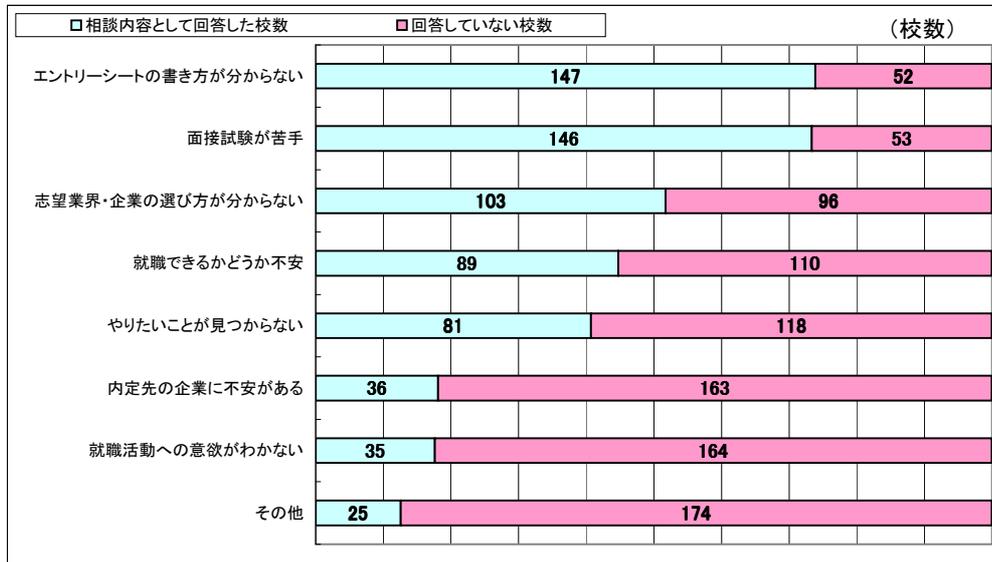
前述のように、無回答が89校。左グラフは、それを除いた110校だけを示す。横軸が利用割合、縦軸が校数なのは前述のグラフと同様。

グラフ内の色分けは、「求人情報を出発点として内定を得た学生の割合」を示す。一例を挙げると、「就職希望者のうち大学への求人情報利用者が8割の大学」が17校あり、うち、8校において「そうした求人情報を利用して8～10割が内定を得た」ことを示している。

【コメント】
 大学内の求人情報の利用率が高い大学ほど、そこから高い割合で内定を得ていることが分かる。
 就職サイトを経て得る内定もあるが、個別大学に向けられた求人情報はより高い内定率に結びついていると推測される。

②大学の取り組み

Q. キャリアセンターに持ち込まれる学生の相談内容として多いものに「○」を付けてください(複数回答可)。

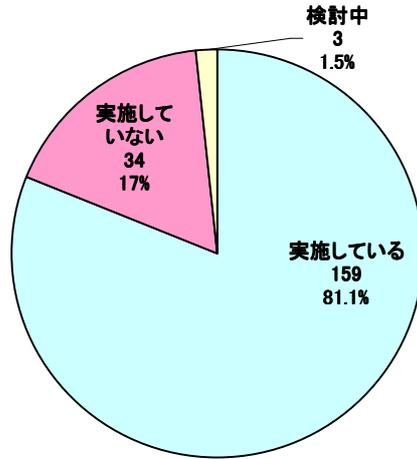


相談内容は、「エントリーシート」「面接」が、群を抜いて多い。なお、この2項目を回答しない大学は、医療系、理工系が中心。

【コメント】

これら回答数上位2つの相談内容は個別対応が必須であり、学生がキャリアセンターの職員を頼りにしている状況が伺える。

Q. 貴学内に企業を招く「合同企業説明会(相談会)」を実施していますか？



数字は校数と全体の割合。無回答は除き、196校で集計。

大学内に企業を招く「(学内)合同企業説明会(相談会)」を実施している割合は80%近くにはのぼる。なお、実施していない大学は、医療系、教育系、体育系、芸術系に限られる。

下図は、「内定状況の評価」と「合同企業説明会の実施状況」の関連を示す。

		合同企業説明会(相談会)実施状況		
		実施している	実施していない	検討中
内定状況の評価 (現(前)述の4年生の)	大いに良い	6	2	
	やや良い	70	7	
	変わらず	47	14	2
	やや悪い	15	5	1
	大いに悪い	5		
	無回答	16	6	
総計		159	34	3

【コメント】

「実施している」に注目すると、「大いに良い」「やや良い」で半数近くになる。一方、「実施していない」は、両者を合わせても3分の1程度にしかならない。学内での「合同企業説明会」は内定率アップには欠かせないイベントになっている。

Q. 内定率を向上させるための取り組みについてお尋ねします。その効果について、「◎→○→△」の3段階の高低でお答えください。



グラフは無回答を除いた校数。

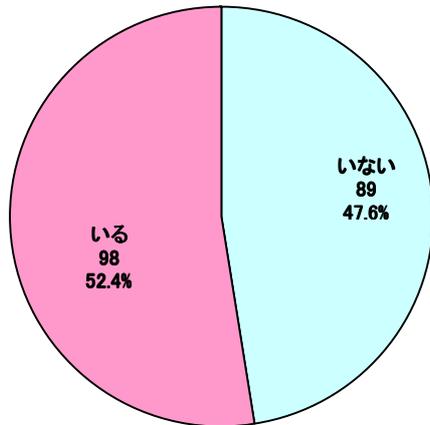
△「低い」を1点、○「中程度」を2点、◎「高い」を3点として、再集計すると取り組みの評価は以下のようなランキングになる。上図とは順位が異なる。

- 1 面接練習・・・517点
- 2 エントリーシートや履歴書の添削・・・492点
- 3 学内実施の企業合同説明会・・・467点
- 4 実績のある企業との連携強化・・・460点
- 5 キャリア職員によるガイダンス・・・448点

【コメント】

内定率を向上させるには、「エントリーシートや履歴書の添削」および「面接練習」が有効なのだろう。ただし、こうした個別対応が必要な取り組みは人手がかかるため、思うように行えない大学も少なくないのではないかと。学内実施の合同企業説明会は、学生と企業が直接、顔を合わせ意見の交換ができる場として注目されている。内定率向上に大きく寄与しているようだ。新規企業開拓も注目されている取り組みだが、即効性はそれほど高くないようだ。

Q. 大学卒業後、正社員や正規職員ではなく、非正規雇用としての進路をあえて選択する学生はいらっしゃいますか？



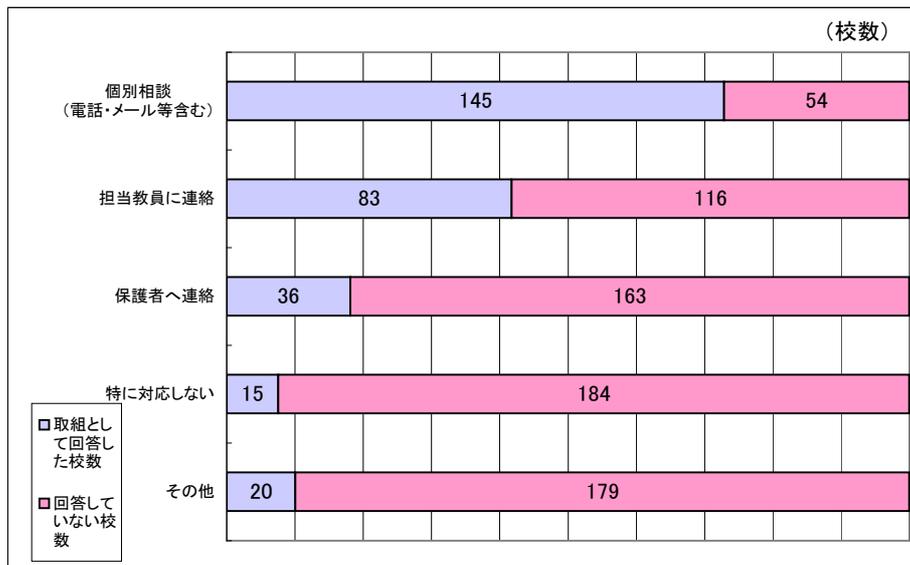
グラフは無回答を除いた校数。

およそ半数の大学で、卒業後、非正規雇用としての進路をあえて選択する学生が存在している。その数は、1大学当たり1割程度。その大きな理由は、教員就職の場合、「正規採用」と「臨時的任用」に分かれるためと考えられる。ほかに、芸術活動のため、非常勤しかやりたい仕事が見つからないという回答も散見された。なお、就活に疲れたから等の回答はほとんどなかった。

〔自由回答より〕

- ・Uターン希望だが希望職種の正規採用もしくは雇用がない。
- ・栄養職員の臨時職員採用。
- ・音楽活動と両立させるため。
- ・学芸員、文化財専門職、司書で非正規雇用からスタートする場合がある。
- ・教員採用試験再受験のため、非常勤教員として就職。
- ・航空など非正規雇用しか採用のな分野や業界へ希望する学生がいるため。
- ・公務員志望の学生が不合格の場合、そのまま自治体の臨時職員になる。
- ・地元志向で志望する就職先から求人が出ないため。
- ・創作、芸能活動を並行して行うため。

Q. 卒業を控えた学生のうち、就職も進学も希望しない学生に対し、どのような対応を取っていますか？

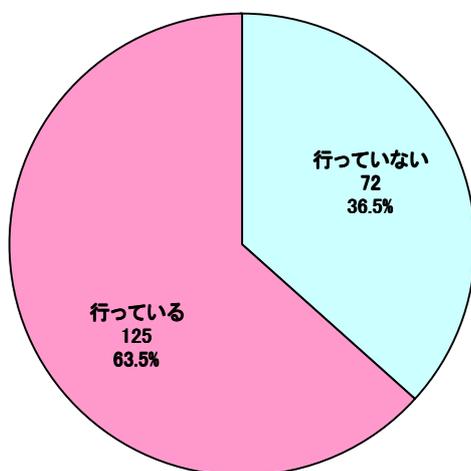


個別相談を中心に何らかの対策が取られている。

その他には、ハローワークとの連携を示す記述が見られた。

【コメント】
 教員、保護者、そしてハローワークを含め、複数の連携により問題を解決しようという大学も少なからずあった。「連携」が問題解決のキーワードといえるのではないかな。

Q. 最近、保護者が積極的に就職活動に協力するようになったと言われていますが、保護者向けのイベント等は行っていますか？



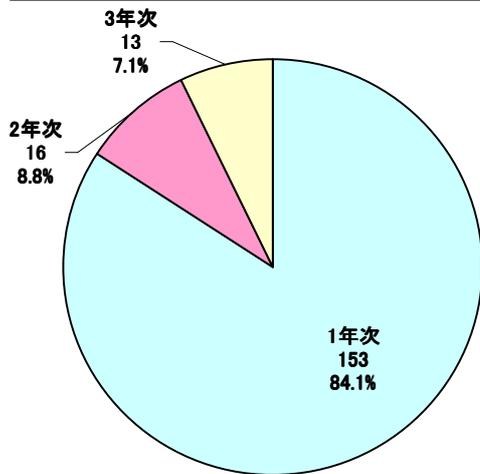
グラフは無回答を除いた校数。

6割が何らかの保護者向けのイベントを実施し、3年生の親を想定したものが中心になっている。保護者会やオープンキャンパスとの併催が多い。

現状報告、個別相談が主な内容だが、「親の心構え講演」「優良中堅・中小・BtoB企業の見つけ方講演」など掘り下げた展開も見受けられた。さらに、保護者向けの就職セミナー、後援会を巻き込んだイベント、地方での開催、三者面談を行う大学もあった。

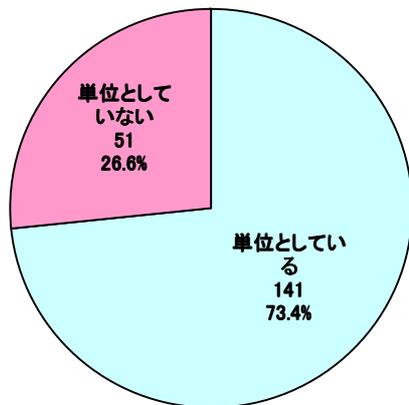
Q. 貴学では学生に対するキャリア教育を何年次から始めていますか？ また、キャリア教育の内容についてご回答ください。

キャリア教育の開始年次は・・・



グラフは無回答を除いた校数。
 回答数の84.1%が1年次から実施。
 大学によって展開される内容はかなり異なる。ただし、徐々に職業観を育成する点は共通している。

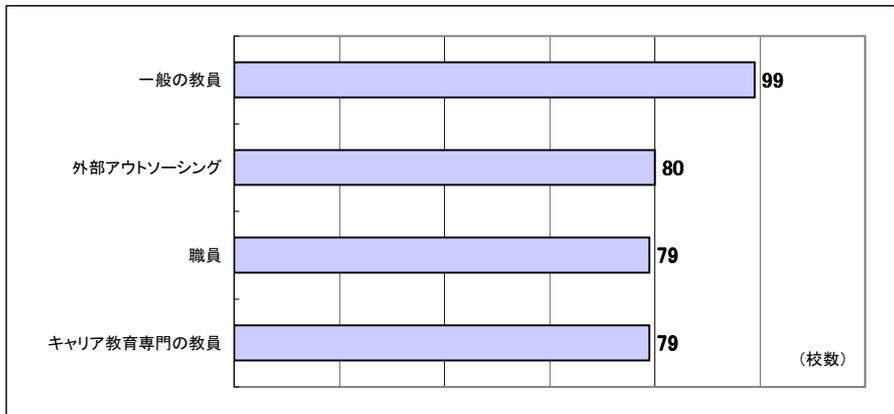
キャリア教育の単位化は・・・



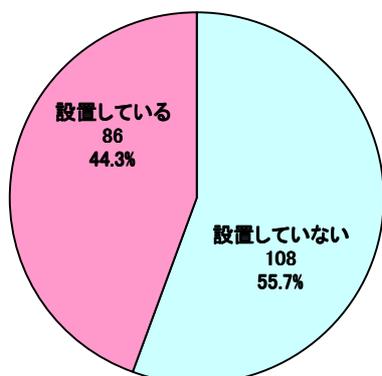
グラフは無回答を除いた校数。
 回答校の73.4%が、何らかのキャリア教育を単位取得の対象にしている。
 プログラムの実施主体は、学内の一般の教員が中心。キャリア教育専門の教員はそれよりは少ない。

【コメント】
 教える内容によっては対応が難しいのだろうか、外部アウトソーシングも多い。外部アウトソーシングは、今後、キャリア教育を進める上で必要性が増すと考えられる。

キャリア教育の担い手は・・・



Q. 貴学ではハローワークの窓口を設置していますか？ 設置の場合、どのように利用していますか？



グラフは無回答を除いた校数。

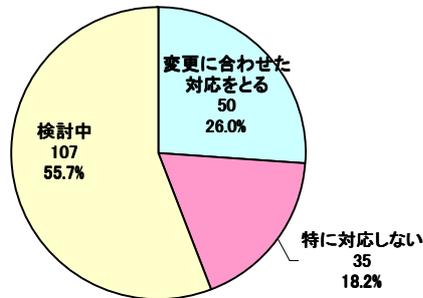
新卒応援ハローワークでは、ジョブサポーターを多くの大学に派遣している。訪問だけでなく、キャンパス内に常駐する時間帯を設けている大学もある。4割以上の大学で、ジョブサポーターが窓口で学生を担当することが分かった。その頻度はさまざまで、月1回から週2回まで。必要のあるときだけ常駐するケースもある。

面接指導、求人紹介、ガイダンス実施などが主な業務だが、意欲の低い学生や発達障害の学生支援を担当するケースも見受けられた。

③就職・採用活動の見直し

Q. 2016年採用入社の学生より、就職活動スケジュールの変更が予定されていることについてご意見をお聞かせください。〔広報開始は12/1→3/1、採用選考活動開始は4/1→8/1とそれぞれ後ろ倒し〕

就職支援のあり方についてどのような方向性が・・・



グラフは無回答を除いた校数。

変更に合わせて対応は、就職スケジュールの見直し(説明会などの後ろ倒し)が中心。

【コメント】

検討中が半数以上を占める。各大学、各企業の動向を見極めているためだと考えられる。

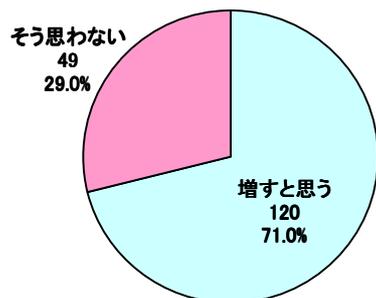
スケジュール変更で生じるとされるメリットと不安に感じられる点(課題)について・・・

自由回答形式で尋ねた。

就職スケジュールが後ろ倒しになることで、メリットとしては、3年次まで学業に専念できるが多数を占めた。また、留学しやすくなる、就活の準備に時間を費すことができるといった意見も寄せられた。

逆に不安に感じられる点としては、4年次を中心として行われる教育実習や卒業論文・卒業研究の作成、公務員や教職の採用試験などとの両立が、現在よりも難しくなるとの指摘が多い。さらに、企業の青田買いなど企業倫理に関する問題、就活に出遅れる学生とその結果未内定で卒業してしまう学生の増加などへの不安も、少なからず寄せられた。

スケジュール変更により、インターンシップの重要性は・・・



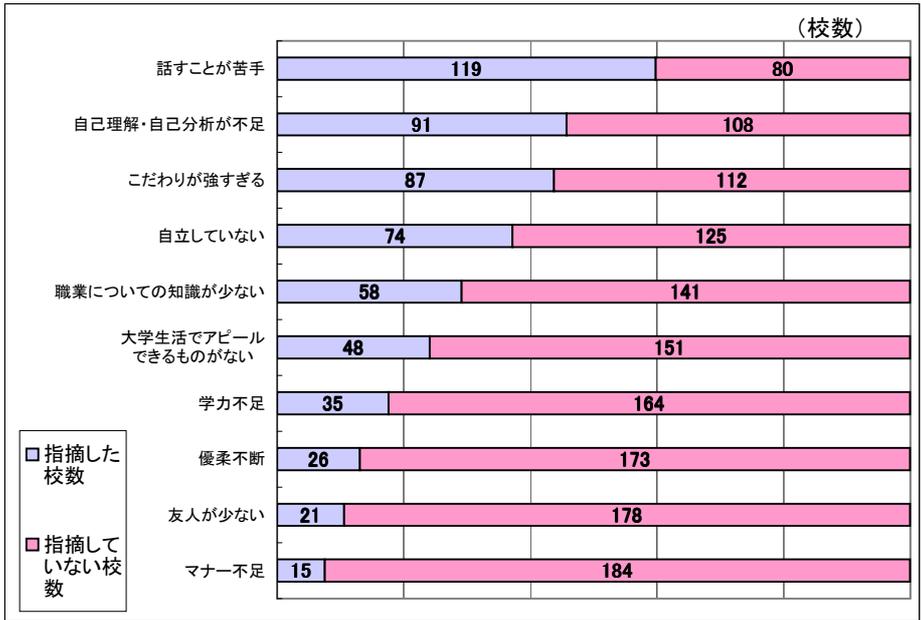
グラフは無回答を除いた校数。

重要視されると7割が回答。インターンシップが単なる就業体験を超えて、選考の一部になることを指摘する回答が多数を占めた。

[自由回答より]

- ・インターンシップを経験し、早い段階から進む方向を決めていくことが重要視されると思う。
- ・インターンシップを実際の就活期間(選考の一環)に組み入れようとする企業があるのではないかと。
- ・企業が8月1日まで何もしないとは思えない。
- ・企業が今まで以上に学生と接触を求める。
- ・社会との接点を増やすことがより重要になってくる。インターンシップを通じての経験、学生の仕事に関する意識向上等について期待される。
- ・早くから職業観を身につける必要がある。また、インターンシップ参加が採用選考と直結する可能性が高い。

Q. 就職が決まらない学生の特徴について、特に当てはまると思う項目を3つまで選択してください。



話すことが苦手への指摘が最も多かった。

自由回答形式で、これ以外にあがったものとしては、「就職への意識が低い」「親への依存が強い」「発達障害を抱える」「地元就職にこだわる」があった。